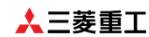


2025年度決算説明資料

2026年5月12日

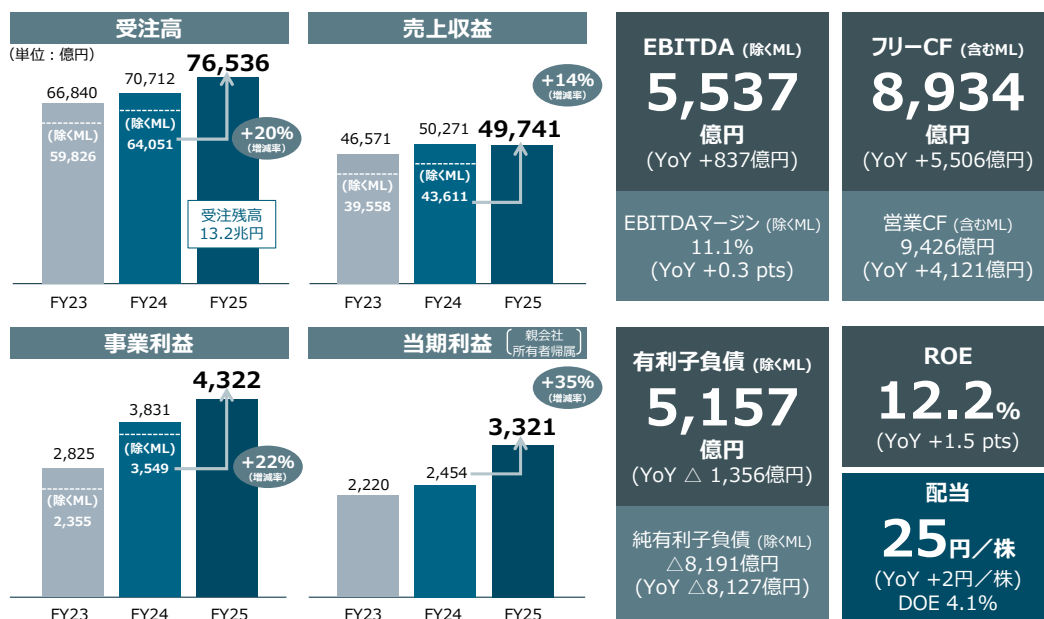
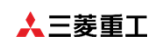
三菱重工業株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



皆さん、こんにちは。社長の伊藤です。
本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。
25年度決算の評価と26年度の経営の方向性についてお話したいと思います。

2025年度決算実績



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

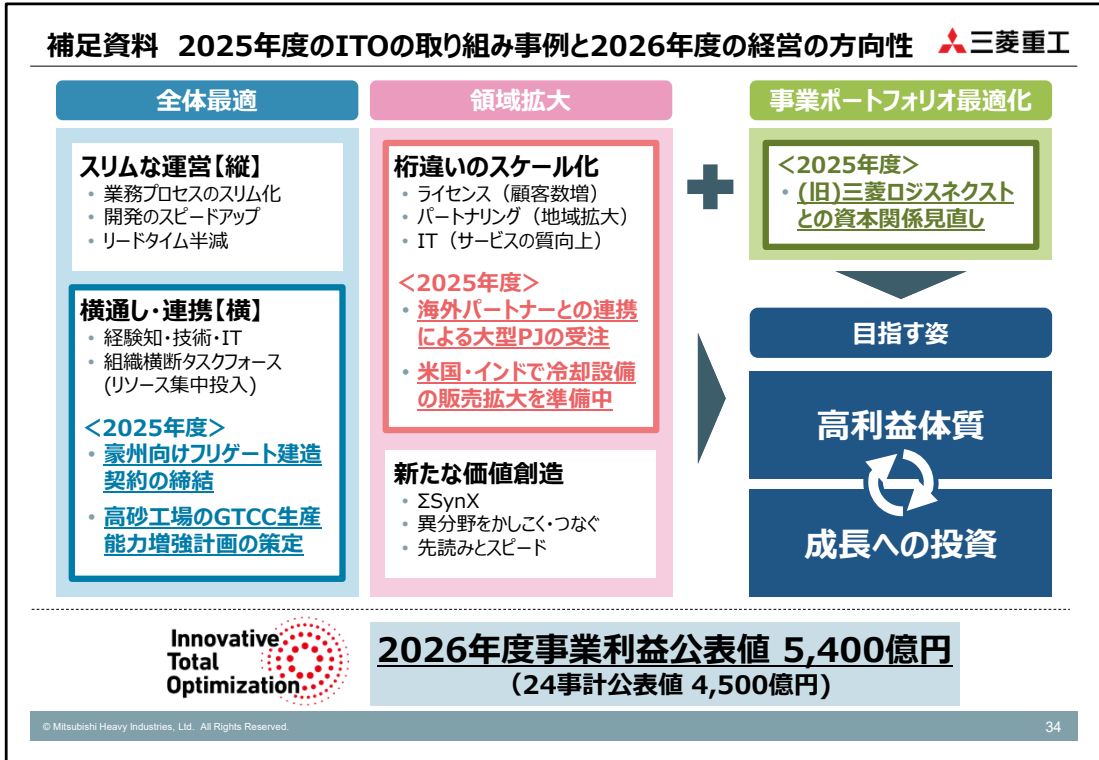
25年度の受注高は、前年比で20%増加し7.7兆円です。これは北米、アジア市場でのGTCCの受注が好調なことが主要因です。大型ガスタービンの受注台数は35台と昨年度から大幅に増加しました。

売上収益は、GTCC、原子力、防衛で順調に伸ばした結果、約5兆円となりました。事業利益は、すべてのセグメントで昨年度実績を上回り、4,322億円となっています。

これらから、24事計の達成とさらなる成長への手応えを感じています。

外部環境に目を向けますとAIの高度化により、データセンタの需要が増加しています。それに伴い電力需要も拡大しています。また、カーボンニュートラルに関する政策は、より現実的で実行可能な路線に進んでいます。

一方で、中東地域を中心に地政学リスクが顕在化しています。これに伴い、世界的なサプライチェーンの不安定化や物価高騰の懸念も依然として続いています。こうした不透明な情勢の中で、当社はリスク管理を徹底しつつ、社会課題の解決に貢献できる分野での事業機会を積極的に捉え、対応を進めてまいります。



続いて、25年度のITO取り組み事例と26年度に向けた経営の方向性についてご説明します。

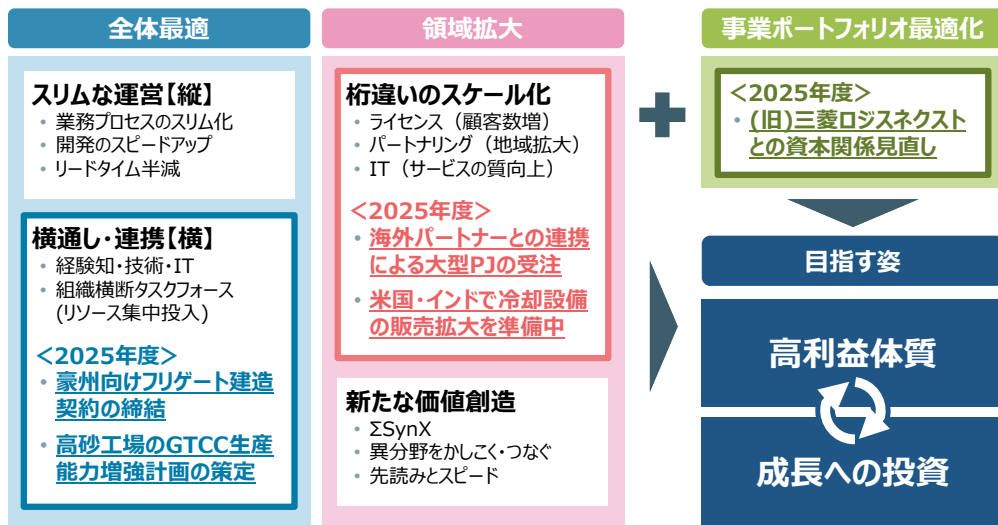
中長期的な成長の為に、「全体最適」と「領域拡大」を柱とした「ITO」を推進しています。25年度はこの「ITO」の考え方を全社に浸透させ、多くのシナジーが生まれつつあります。

具体例として、豪州の次期汎用フリゲート（GPF）プログラムの建造契約を約8カ月で締結しました。この案件では、契約交渉の初期段階から海外プラント経験者を集中投入しました。こうしたシナジー効果を最大限に活用する体制を整えたことで、スムーズな契約締結ができました。

また、GTCCにおいては主力とする高砂工場に加え、他拠点のエンジニアを集中投入しました。これによりプラント工事能力を強化し、旺盛な需要に対応しています。

「領域拡大」の面では、全ての事業分野で新たな顧客価値を創造する取り組みを開始しています。例えば、海外パートナーとの連携により、これから大きく伸びる市場や地域での取り組みを強化しています。具体的な成果事例としては、トルコの建設パートナーとの連携が、トルクメニスタンでの大型プラントの受注につながりました。また、米国やインドで冷却設備の販売拡大の準備を進めています。
 (次ページへ続く)

補足資料 2025年度のITOの取り組み事例と2026年度の経営の方向性  三菱重工



2026年度事業利益公表値 5,400億円
(24事計公表値 4,500億円)

(前ページの続き)

さらに、GTCCをはじめ複数の事業において、製造能力の増強に向けた設備投資と、技術革新を加速させるための研究開発投資を積極的に進めています。これにより、需要増加に対応しつつ、競争力の強化を図っています。

事業ポートフォリオの最適化にも注力しています。三菱ロジスネクストの資本関係見直しのように、戦略的親和性やシナジーの観点から、ベストオーナーへの譲渡も含めて最適な形での事業運営を追求しています。これにより、経営資源をより成長性の高い分野に集中させ、企業価値の最大化を目指してまいります。

これらの施策により26年度の事業利益は、24事計公表値(事業利益4,500億円以上)を大幅に上回る事業利益5,400億円を目指します。

最後に、これらの取り組みや経営戦略の詳細については、5月末に予定している24事計進捗説明会にて、詳しくご説明いたします。引き続き皆様からのご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

以上で、私からの説明を終わります。

1. 決算のポイント	3-8
2. 2025年度決算実績	9-20
・ 連結経営成績サマリー	
・ 連結財政状態、キャッシュ・フロー	
・ 事業利益増減分析	
・ セグメント情報	
3. 2026年度業績見通し	21-28
・ 業績見通しサマリー、ハイライト	
・ 事業利益増減分析	
・ 財務指標の推移	
・ セグメント情報	
4. 補足資料	29-35

当社グループが適用する国際会計基準（IFRS）の規定に基づき、旧三菱ロジスネクスト株式会社（2026年4月30日付で株式会社ロジスネクストに社名変更、同年5月1日付で当社連結対象から除外）及びその子会社・関連会社に係る事業（※以降、当該事業を“ML”と表記）については、非継続事業に分類しております。これにより、前年同期および当期の受注高・売上収益・事業利益は、特段の記載がない限りMLを除いた継続事業のみの金額を表示するとともに、MLに直接関連する資産・負債は、「売却目的で保有する資産・負債」として他の項目と区分して表示しております。なお、キャッシュ・フローについては、計算書本体では区分せず、注記で別掲します。

それでは引き続き、2025年度の決算実績の詳細、ならびに2026年度の業績見通しについて、ポイントを絞って説明致します。説明は、わたくし、IR・SR室所属のAIナレーター、ジロウが担当いたします。

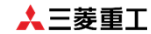
はじめに留意事項です。このページの下段枠内に記載のとおり、会計基準の規定に従って、受注高・売上収益・事業利益については、旧三菱ロジスネクスト関連の事業を除いた金額を表示するとともに、この事業に直接関連する資産・負債は、「売却目的で保有する資産・負債」として、まとめて表示しておりますので、ご留意ください。

1. 決算のポイント

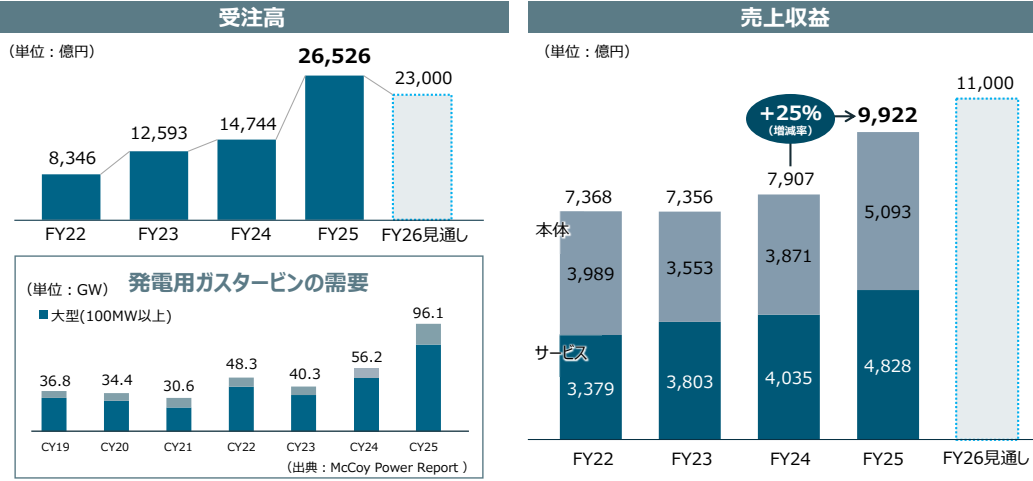
- **受注高、事業利益、当期利益及びフリー・キャッシュ・フローは過去最高となった**
- **受注高：76,536億円**（前年度比：+12,484億円、20%増）
エネルギーが大幅に増加。主な事業別では、GTCC、原子力、エンジニアリングが受注を伸ばした。
受注残高は、前年度末から30,013億円増の13兆2,376億円となった
- **売上収益：49,741億円**（前年度比：+6,130億円、14%増）
エネルギー、プラント・インフラ、航空・防衛・宇宙の3セグメントにおいて前年度比増収。
主な事業別では、GTCC、防衛・宇宙が売上収益を大きく伸ばした
- **事業利益：4,322億円**（前年度比：+772億円、22%増）
全セグメントにおいて前年度比増益。火力事業の一部工事における損失や電源システムソリューションのれん減損、前年の土地売却のリバウンド等があったものの、GTCC、原子力、製鉄機械、防衛・宇宙が事業利益を大きく伸ばした
- **当期利益：3,321億円**（前年度比：+866億円、35%増）
事業利益の増加にともない前年度比増益
- フリー・キャッシュ・フローは、前年度比+5,506億円の8,934億円となった。
GTCCを中心に前受金の入金が先行し、営業CFは高水準となった
- 配当は、従前公表の一株当たり24円から1円を上乗せした**一株当たり25円**を予定する

(省略)

決算ハイライト – GTCC事業の受注高・売上収益 –



- 石炭/石油火力からの転換、再エネの負荷変動吸収の役割に加え、データセンターを中心とした旺盛な電力需要を背景に市場拡大
- 大型ガスタービンを35台受注。受注高は、過去最高だった前年度を大幅に上回り、受注残高は5兆円を超えた
- 旺盛な需要に対応すべく、増産体制を構築中。リーンな体制でのスループット最大化を目指す



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

6

6ページから8ページには、伸長3事業についての事業別ハイライトを記載しています。はじめにGTCCです。

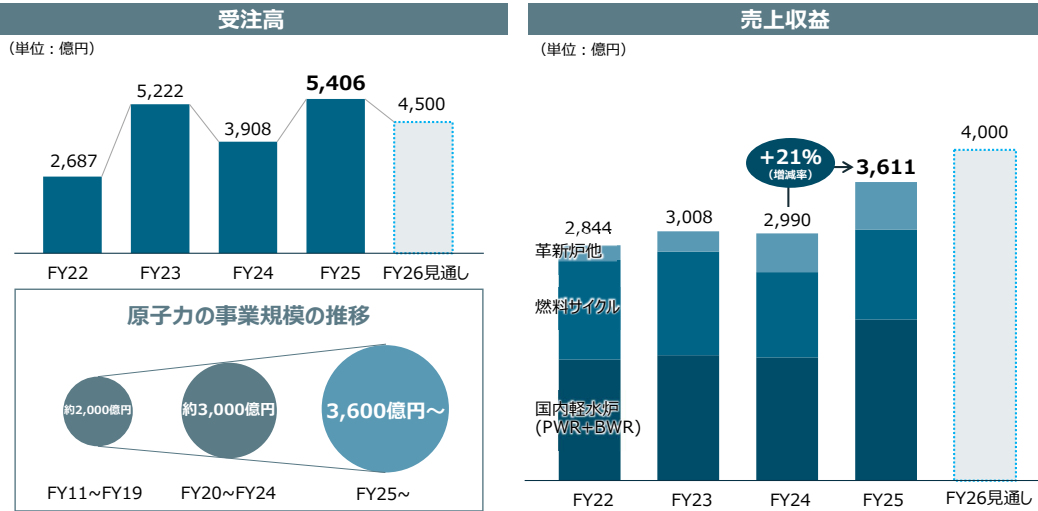
左下枠内の棒グラフに示すとおり、暦年ベースの2025年の全世界におけるガスタービン需要は約100GWと、前年から大きく拡大しました。このような旺盛な需要を背景に、2025年度は大型ガスタービンを35台受注し、受注高は過去最高を更新しました。

右側のグラフで示している売上収益も、ここ数年の受注の伸びを背景に、本体、サービスともに引き続き増収傾向にあり、2026年度も更なる増収を見込んでいます。

決算ハイライト - 原子力事業の受注高・売上収益 -



- 国内軽水炉、燃料サイクル施設、高速炉・高温ガス炉の実証炉開発等の各分野で受注拡大
- 受注拡大にともない、各分野の売上も増加

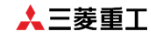


7ページには、原子力について記載しています。

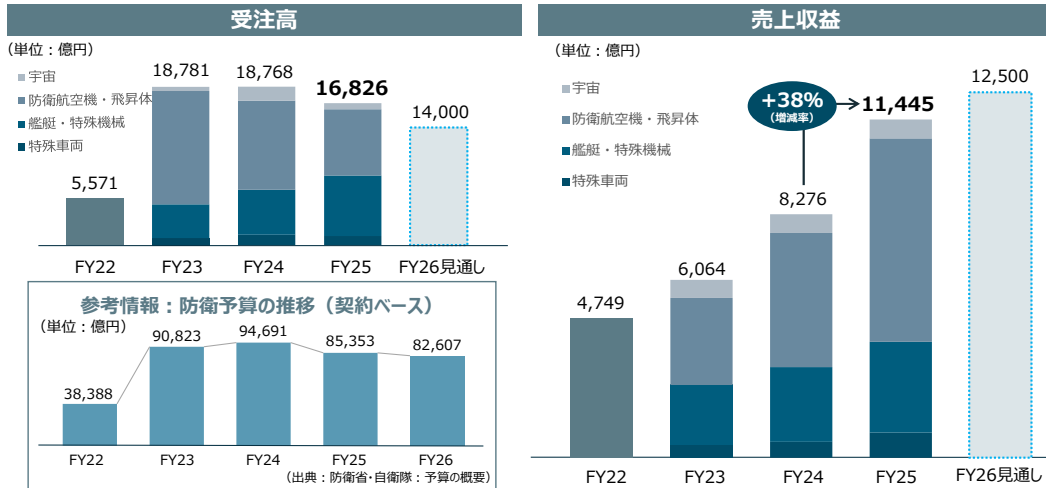
2025年度は、国内軽水炉、燃料サイクル施設、次世代炉の実証炉開発など、各分野で受注が拡大、これに伴い、売上も前年度を大きく上回りました。

左下枠内の円グラフに示すとおり、近年、約3,000億円で推移してきた事業規模は、今後は4,000億円を超える水準で推移する見通しです。

決算ハイライト - 防衛・宇宙事業の受注高・売上収益 -



- 豪州向けフリゲートをはじめとする複数の大型案件を受注。FY26も、引き続き高水準の受注高を見込む
- FY23からの旺盛な受注を背景に、売上高は、前年度比4割増と、好調な伸びを示した
- 4兆円を超えた受注残を着実に遂行すべく、引き続き生産設備・人員リソース増強を進める



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

8ページには、防衛宇宙について記載しています。

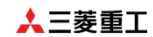
2025年度の受注は、複数の大型案件を受注した前年度に比べると減少しましたが、オーストラリア向けフリゲートを受注したことなどにより、高水準の受注高を確保しました。2026年度の防衛予算は2025年度と同規模で、引き続き高い水準の受注を見込んでいます。

売上収益は、ここ数年の受注急増を背景に、前年度比38%の増収となりました。2026年度についても増収を見込んでいます。

2. 2025年度決算実績

ここから、決算実績について、もう少し詳細に説明してまいります。

連結経営成績サマリー

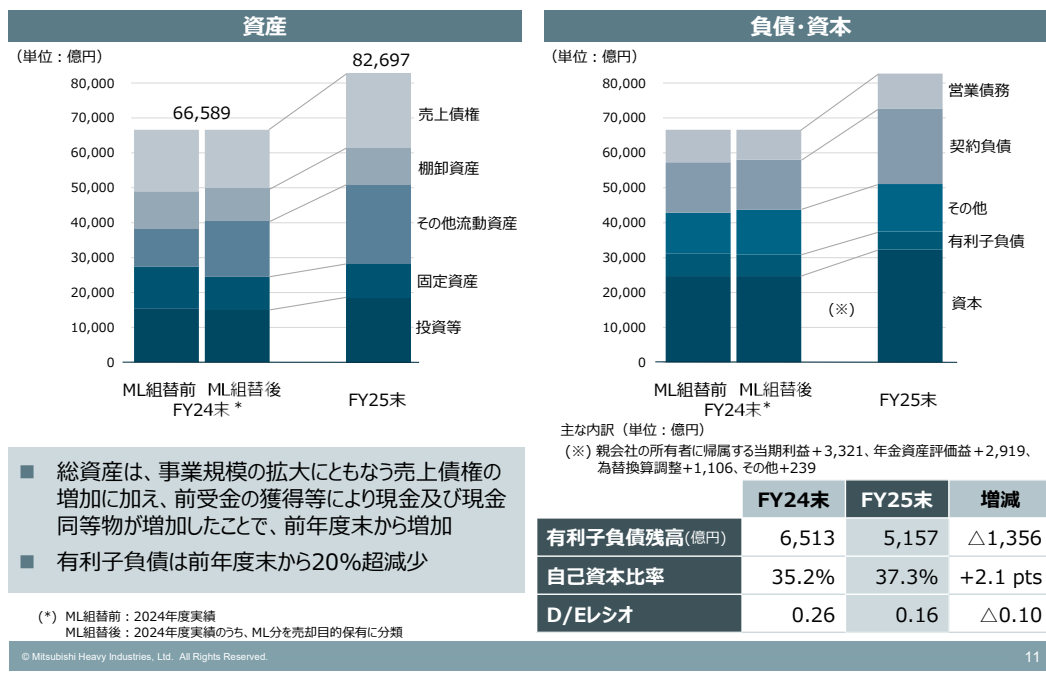
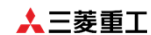


(単位：億円)	FY2024 (利益率)		FY2025 【B】 (利益率)	増減 【B】-【A】 (利益率)	(増減率)
		除くML* 【A】			
受注高	70,712	64,051	76,536	+12,484	(+19.5%)
売上収益	50,271	43,611	49,741	+6,130	(+14.1%)
事業利益	3,831 (7.6%)	3,549 (8.1%)	4,322 (8.7%)	+772 (+0.6 pts)	(+21.8%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,454 (4.9%)	2,454 (5.6%)	3,321 (6.7%)	+866 (+1.1 pts)	(+35.3%)
EBITDA	5,413 (10.8%)	4,699 (10.8%)	5,537 (11.1%)	+837 (+0.3 pts)	(+17.8%)
フリー・キャッシュ・フロー	3,427	3,427	8,934	+5,506	
営業キャッシュ・フロー	5,304	5,304	9,426	+4,121	
投資キャッシュ・フロー	△1,877	△1,877	△491	+1,385	

(*) 除くML：P.2に記載した要領に基づき、2024年度の実績を組み替えて表示

(省略)

連結財政状態

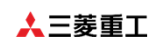


11ページをご覧ください。このページには、バランスシートについて記載しています。

総資産は、前年度末比で約1.6兆円増加し、8兆2,697億円となりました。右側の「契約負債」、すなわち、前受金が大幅に増加し、それに伴って左側の「其他流動資産」に含まれる現預金残高が増加しています。

また、右側の、資本の部は、純利益の増加に加え、年金資産の評価益や円安の影響で、大幅に増加しています。

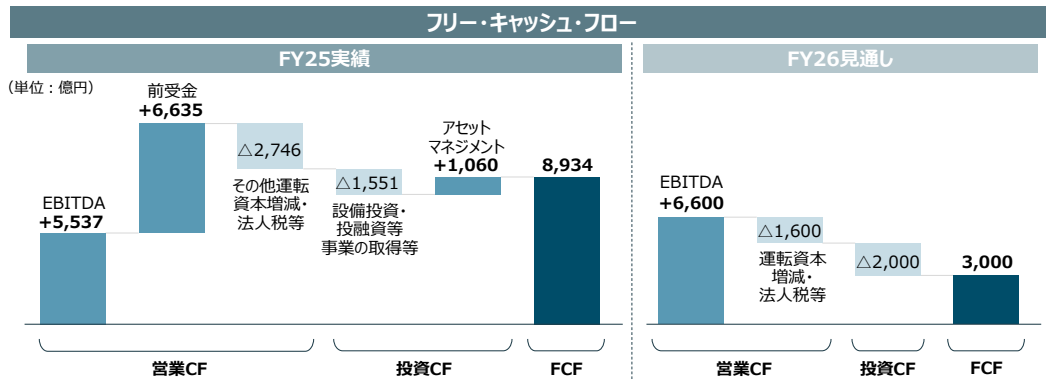
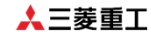
連結財政状態



(単位：億円)	FY24末		FY25末 [B]	増減 [B]-[A]
	ML組替前	ML組替後[A] (参考値)		
売上債権（営業債権及び契約資産）	17,765	16,645	21,277	+4,632
棚卸資産	10,625	9,398	10,418	+1,020
その他流動資産	10,725	16,036	22,707	+6,671
（うち現金及び現金同等物）	(6,578)	(6,412)	(13,348)	(+6,936)
（うち売却目的で保有する資産）	(37)	(5,628)	(5,484)	(△144)
固定資産	11,953	9,485	9,783	+298
投資等	15,519	15,023	18,509	+3,486
資産合計	66,589	66,589	82,697	+16,107
営業債務	9,302	8,561	10,008	+1,447
契約負債	14,439	14,345	21,618	+7,273
その他	11,634	12,778	13,628	+849
（うち売却目的で保有する負債）	-	(2,779)	(2,819)	(+40)
有利子負債（除くML）	6,513	6,205	5,157	△1,048
資本	24,698	24,698	32,284	+7,585
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(23,467)	(23,467)	(30,885)	(+7,418)
負債及び資本合計	66,589	66,589	82,697	+16,107

(省略)

キャッシュ・フロー



(単位: 億円)	FY24	FY25	増減
営業キャッシュ・フロー	5,304	9,426	+4,121
投資キャッシュ・フロー	△1,877	△491	+1,385
フリー・キャッシュ・フロー	3,427	8,934	+5,506
減価償却費	1,149	1,214	+65
EBITDA	4,699	5,537	+837
EBITDA (%)	10.8%	11.1%	+0.3 pts

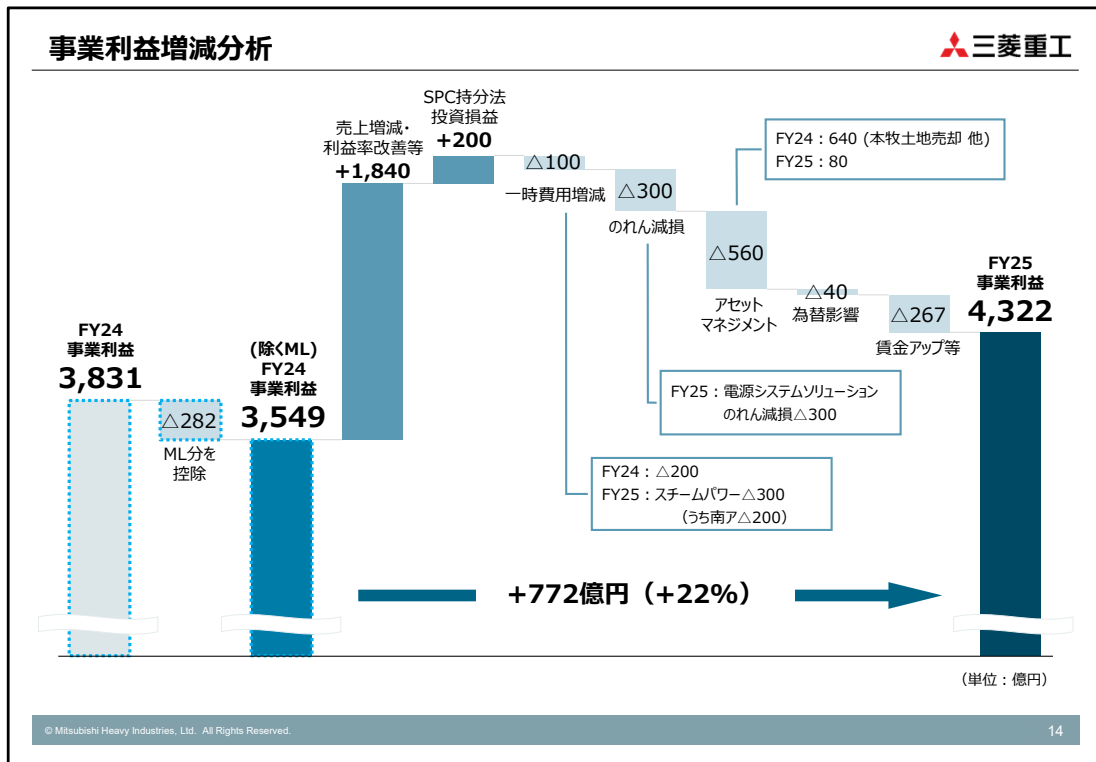
投資CFの主な内訳

(単位: 億円)	FY24	FY25	増減
設備投資・投融資等	△3,045	△1,885	+1,160
事業の取得	△15	△270	△255
不動産等の売却	+764	+146	△618
政策保有株式売却	+244	+914	+670
その他	+174	+603	+429
合計	△1,877	△491	+1,385

13ページをご覧ください。このページには、キャッシュ・フローについて記載しています。

フリー・キャッシュ・フローは、EBITDA、5537億円に加え、GTCCなどでの多額の前受金の獲得もあり、過去最高の8,934億円となりました。

なお2026年度は、豊富なバックログの遂行に伴う運転資本の増加を見込んでいます。



14ページをご覧ください。このページは、前年同期対比での事業利益の増減要因を示しています。

三菱ロジスネクスト分を除いた前年度実績3,549億円から、合計で772億円の増益となりました。

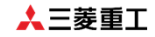
このうち、1,840億円は売上の増加と利益率の改善によるものと分析しています。豊富なバックログの着実な遂行に加え、収益性の高いアフターサービスの提供により、期初に計画していた改善額、1,340億円を大きく上回る成果を上げました。

一方、マイナス300億円ののれんの減損は、2023年度に買収した米国の電源システムソリューションの事業会社に関するもので、今回の決算においては、会計基準に従って減損判定を行い、損失を計上しています。ただし、同社を買収した目的であるデータセンター関連ビジネスは、引き続き成長領域として、注力してまいります。

また、アセットマネジメントでは560億円の減益となりましたが、これは昨年度、横浜の本牧工場の土地の一部を売却し、多額の売却益を計上したリバウンドによるものです。

続いて、事業セグメント別の受注・売上・事業利益の動きについてご説明します。

決算実績 セグメント別内訳



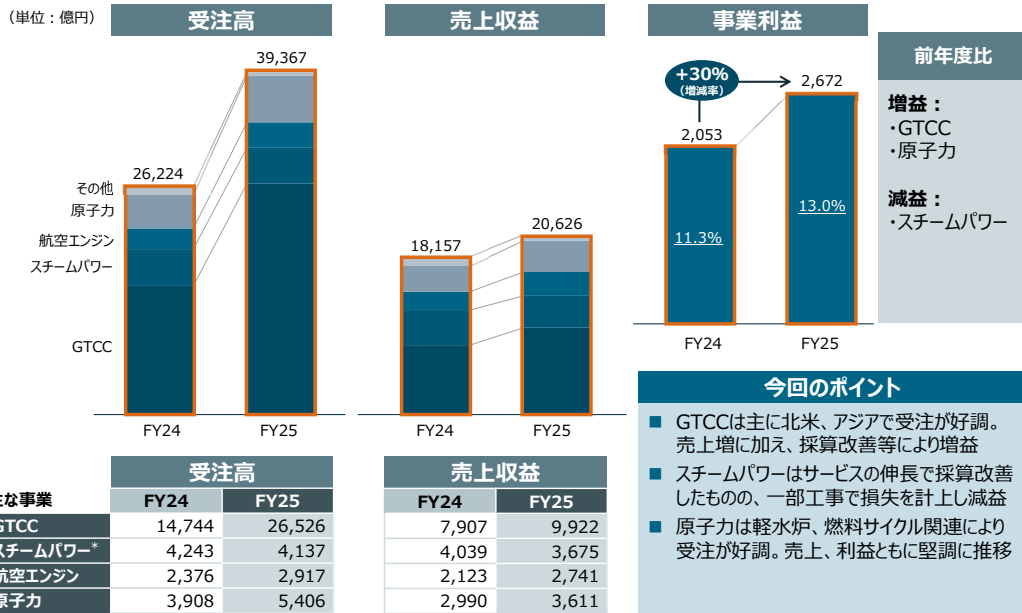
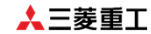
	受注高			売上収益			事業利益		
	FY24	FY25	増減	FY24	FY25	増減	FY24	FY25	増減 (増減率)
(単位：億円)									
エナジー	26,224	39,367	+13,142	18,157	20,626	+2,468	2,053	2,672	+619 (+30%)
プラント・インフラ	10,002	11,580	+1,578	8,521	8,808	+287	596	841	+244 (+41%)
物流・冷熱・ ドライブシステム (除くML)*	6,644	6,381	△263	6,410	6,308	△102	204	330	+125 (+62%)
航空・防衛・宇宙	21,001	19,294	△1,706	10,306	13,938	+3,632	999	1,515	+515 (+52%)
その他及び 全社又は消去 (除くML)*	179	△87	△266	215	59	△155	△304	△1,037	△732 (-)
合計	64,051	76,536	+12,484	43,611	49,741	+6,130	3,549	4,322	+772 (+22%)

(*) 除くML：P.2に記載した要領に基づき、2024年度の実績を組み替えて表示

(省略)

Intentionally left blank

セグメント別決算実績 <エナジー>



(* FY24実績は、2025年4月1日のエナジーセグメント内の組織再編の影響を2024年度に遡り反映した金額を記載

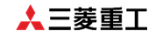
17ページをご覧ください。

エナジーセグメントでは、特にGTCC、および原子力の受注が大幅に増加し、セグメント全体の受注高は、前年度比50%増の3兆9,367億円となりました。

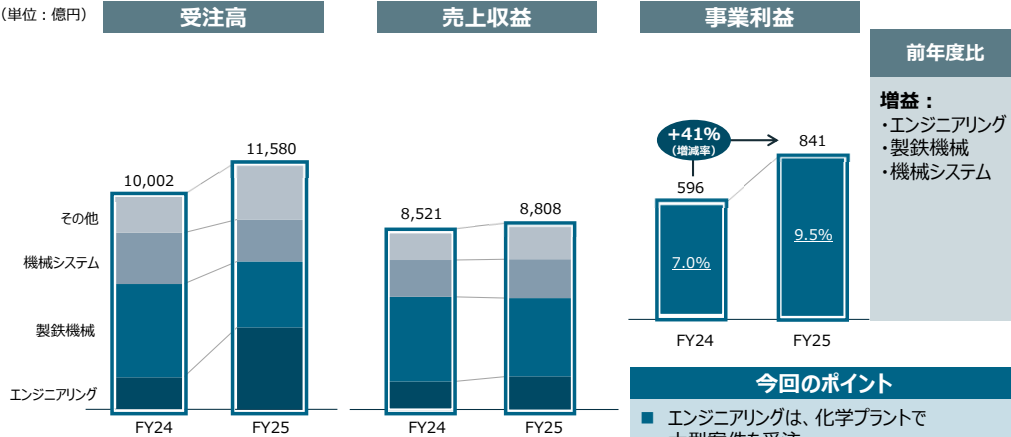
GTCCは引き続き北米を中心に、旺盛な電力需要を背景とした発電設備需要を着実に取り込み、好調な受注を維持しています。

売上高は前年度比13.6%増の2兆626億円、事業利益は、主にGTCCと原子力の増収・採算改善により、スチームパワーで計上した一時損失300億円をカバーした上で、前年度比30%増となる2,672億円と、大幅な増益を達成しました。

セグメント別決算実績 <プラント・インフラ>



(単位：億円)



前年度比
増益：
・エンジニアリング
・製鉄機械
・機械システム

主な事業	受注高		売上収益	
	FY24	FY25	FY24	FY25
エンジニアリング	1,490	3,819	1,378	1,616
製鉄機械	4,351	3,076	3,952	3,656
機械システム	2,390	1,952	1,723	1,819

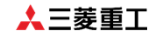
- 今回のポイント**
- エンジニアリングは、化学プラントで大型案件を受注
 - 製鉄機械、機械システムは昨年的大型受注のリバウンドで受注が減少するも、売上、利益ともに好調
 - その他は、環境設備の受注が増加

18ページをご覧ください。

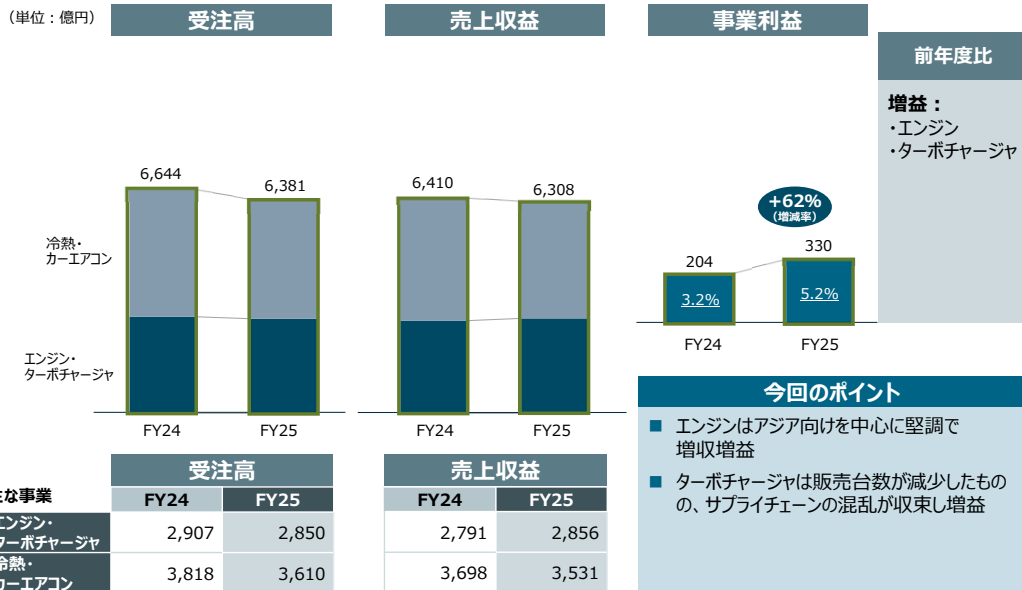
プラント・インフラセグメントでは、トルクメニスタンの肥料プラントなど、エンジニアリングの受注が牽引役となり、前年度に大型受注があった製鉄機械・機械システムの反動減をカバーしました。

事業利益は、製鉄機械や機械システムを中心に採算が改善したことにより、841億円となり、前年度比40%超の増益を達成しました。

セグメント別決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



(単位：億円)



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

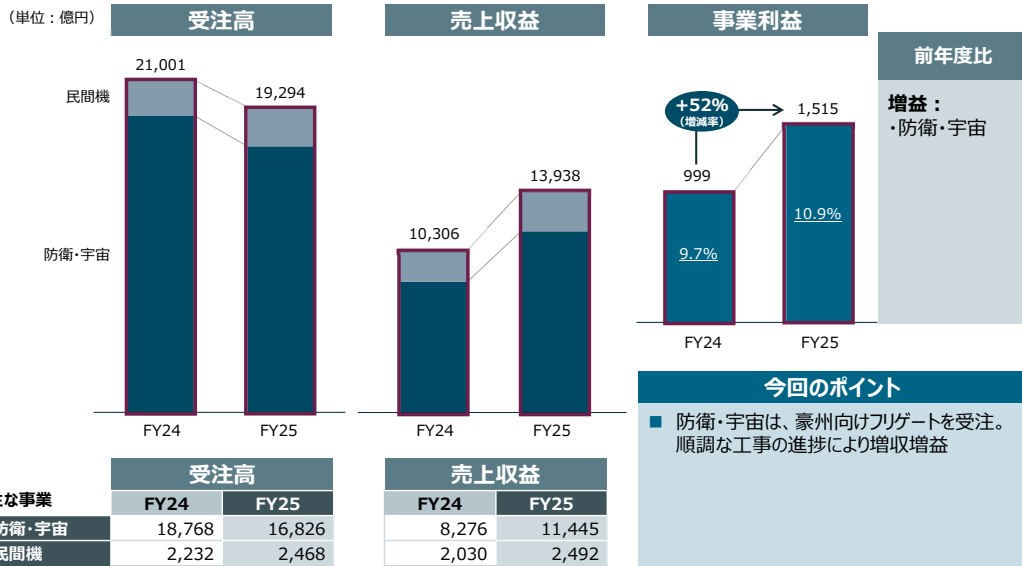
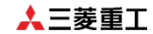
19

19ページをご覧ください。

物流・冷熱・ドライブシステムセグメントは、ターボチャージャーと冷熱の、販売台数の減少により減収となりました。

一方で、アジア向けを中心に堅調な、エンジンの増収効果や、ターボチャージャーにおいて昨年度生じたサプライチェーンの混乱が収束したことなどにより、事業利益は増益となりました。

セグメント別決算実績 <航空・防衛・宇宙>



20ページをご覧ください。

航空・防衛・宇宙セグメントの受注は、前年度に複数の大型案件を受注した反動で減少しましたが、オーストラリア向けフリゲートの受注も寄与し、当年度も高い水準となりました。

また、防衛・宇宙の豊富な手持ち工事の着実な遂行により、前年度比35%の増収、および50%超の増益を達成しました。

3. 2026年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2026年4月1日付の組織再編により、「データセンター&エネルギーマネジメント部」を「物流・冷熱・ドライブシステムセグメント」へ移管し、同セグメントの名称を「インダストリアル・ソリューションセグメント」に改称しました。

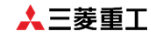
業績見通しには、中東情勢の影響を含めておりません。
足許の影響は限定的ですが、情勢は流動的であり、引き続き状況を注視して参ります。

ここからは、2026年度業績見通しについてご説明いたします。

なお、本年4月1日付の組織再編により、「データセンター&エネルギーマネジメント部」を、「物流・冷熱・ドライブシステムセグメント」へ移管し、セグメント名称を「インダストリアル・ソリューションセグメント」に改称しています。

また、中東情勢については、現時点で流動的かつ不透明な状況であるため、今回の見通しには織り込んでいません。

業績見通しサマリー



(単位：億円)	2025年度 (利益率)	2026年度 (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	76,536	68,000	△8,536	(△11.2%)
売上収益	49,741	54,000	+4,258	(+8.6%)
事業利益	4,322 (8.7%)	5,400 (10.0%)	+1,077 (+1.3 pts)	(+24.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	3,321 (6.7%)	3,800 (7.0%)	+478 (+0.3 pts)	(+14.4%)
ROE	12.2%	12%	△0.2 pts	
EBITDA	5,537 (11.1%)	6,600 (12.2%)	+1,062 (+1.1 pts)	(+19.2%)
フリー・キャッシュ・フロー	8,934	3,000	△5,934	
配当	25円 中間12円/期末13円	29円 中間14円/期末15円	前提為替レート： 1ドル=150円、1ユーロ=180円	

※業績見通しには、中東情勢の影響を含めておりません

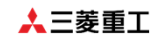
それではスライド22ページをご覧ください。受注高・売上高・事業利益の見通しは、それぞれご覧のとおりです。

受注につきましては、6兆8,000億円を見込んでいます。GTCCの台湾電力向け超大型プロジェクトや、原子力の燃料サイクル関連工事、防衛のオーストラリア向けフリゲートなど、2025年度における大型受注のリバウンドにより減少を見込むものの、高い受注残が継続します。

事業利益は、過去最高となった2025年度から25%増の5,400億円を見込んでいます。

ROEは、2024事業計画の目標である12%の達成、フリー・キャッシュ・フローは3,000億円を見込んでいます。また、配当は4円増配の1株当たり29円を予定しています。

業績見通しハイライト



- 受注6.8兆円、売上5.4兆円、事業利益5,400億円

	受注高	売上収益	事業利益	主なポイント
エナジー	3.45兆円	2.2兆円	3,400億円	GTCC、原子力を中心に増収増益
プラント・インフラ	1.0兆円	0.95兆円	900億円	受注、売上、利益とも堅調
インダストリアル・ソリューション	0.75兆円	0.75兆円	300億円	エンジン、冷熱の販売台数増を見込む
航空・防衛・宇宙	1.65兆円	1.5兆円	1,700億円	好調な受注を背景に、防衛・宇宙の売上が前年度比約10%増加

- 当期利益は、事業利益の増加にともない前年度を上回る3,800億円
- 配当は、前年度の25円から4円を上乗せした1株当たり29円を予定する
- 上記業績見通しは、中東情勢の影響を含まず

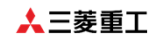
23ページ以降には、セグメント別の業績見通しや、2025年度対比の事業利益増減分析等を記載しています。

また、29ページ以降には各種補足データを掲載していますが、この場での説明は省略させていただきますので、後ほどご覧下さい。

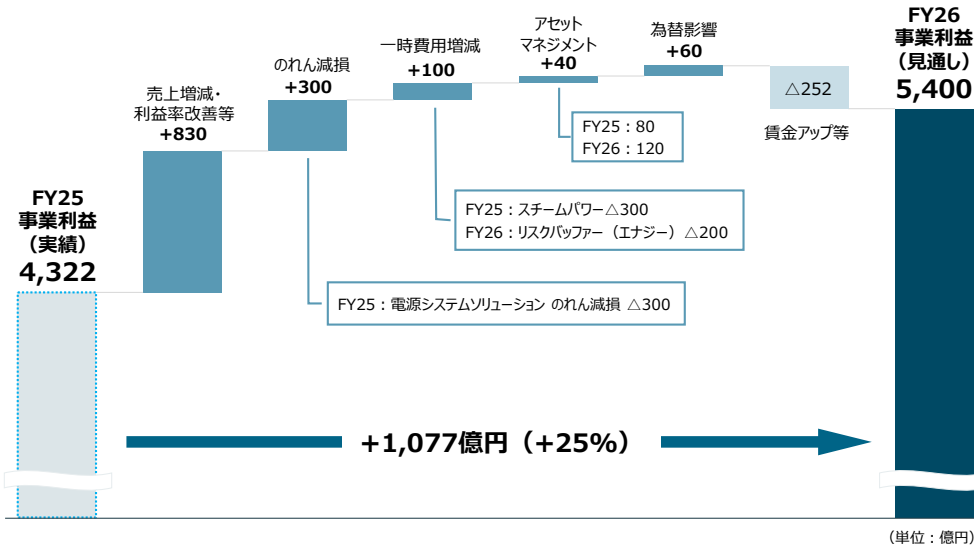
私からの説明は以上となります。

(35ページへ続く)

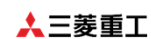
事業利益増減分析



■ エナジー、航空・防衛・宇宙を中心とした売上増や利益率改善、のれん減損のリバウンド等で増益



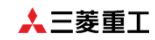
財務指標の推移



	2024年度	2025年度	2026年度見通し
売上高 ^(*)	4.4兆円	5.0兆円	5.4兆円
事業利益率 ^(*)	8.1%	8.7%	10.0%
ROE ^(*)	10.7%	12.2%	12%
総資産	6.7兆円	8.3兆円	7.8兆円
有利子負債	0.7兆円	0.5兆円	-
資本	2.5兆円	3.2兆円	3.4兆円
総資産回転率	0.78	0.67	0.7
D/Eレシオ	0.26	0.16	-
自己資本比率	35%	37%	-
一株当たり配当金	23円	25円	29円

(*)2024年度実績は、ML分を含みます

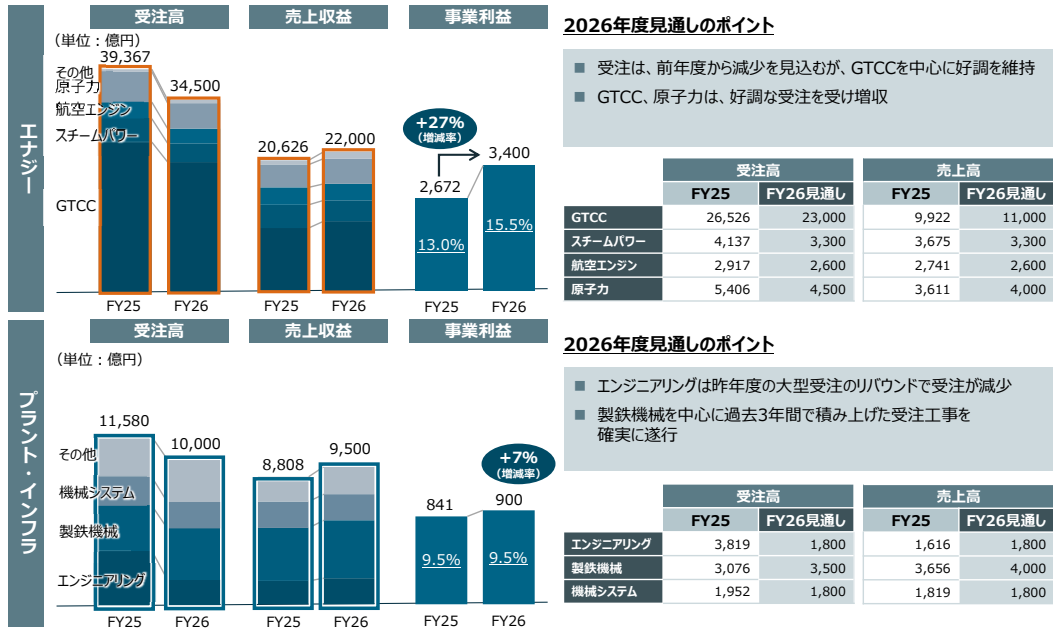
業績見通し セグメント別内訳



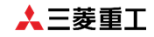
	受注高			売上収益			事業利益		
	FY25* 実績	FY26 見通し	増減	FY25* 実績	FY26 見通し	増減	FY25* 実績	FY26 見通し	増減 (増減率)
(単位：億円)									
エナジー	39,367	34,500	△4,867	20,626	22,000	+1,373	2,672	3,400	+727 (+27%)
プラント・インフラ	11,580	10,000	△1,580	8,808	9,500	+691	841	900	+58 (+7%)
インダストリアル・ソリューション	7,047	7,500	+452	6,999	7,500	+500	△20	300	+320 (-)
航空・防衛・宇宙	19,294	16,500	△2,794	13,938	15,000	+1,061	1,515	1,700	+184 (+12%)
その他及び全社又は消去	△753	△500	+253	△631	0	+631	△685	△900	△214 (-)
合計	76,536	68,000	△8,536	49,741	54,000	+4,258	4,322	5,400	+1,077 (+25%)

(*)FY25実績は、2026年4月1日付の組織再編の影響を2025年度に遡り反映した金額を記載

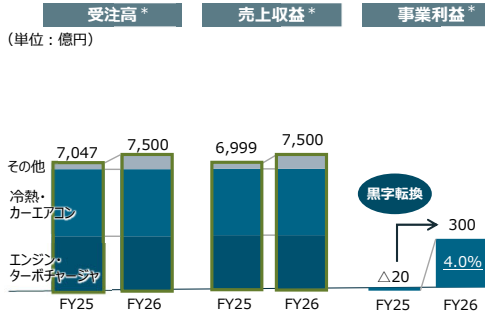
セグメント別業績見通し <エナジー、プラント・インフラ>



セグメント別業績見通し <インダストリアル・ソリューション、航空・防衛・宇宙>



インダストリアル・ソリューション



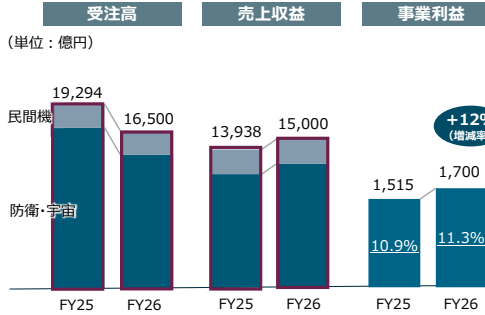
2026年度見通しのポイント

- エンジン、冷熱は販売台数の増加を見込む

	受注高		売上高	
	FY25	FY26見通し	FY25	FY26見通し
エンジン・ターボチャージャ	2,850	3,000	2,856	3,000
冷熱・カーエアコン	3,610	3,700	3,531	3,700

(*)FY25実績は、2026年4月1日付の組織再編の影響を2025年度に遡り反映した金額を記載

航空・防衛・宇宙



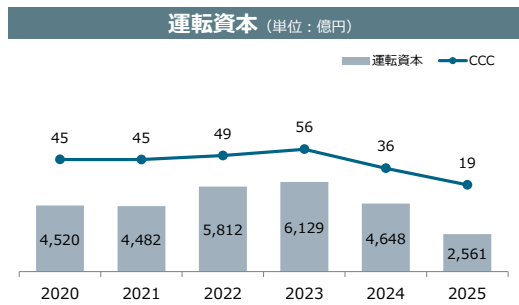
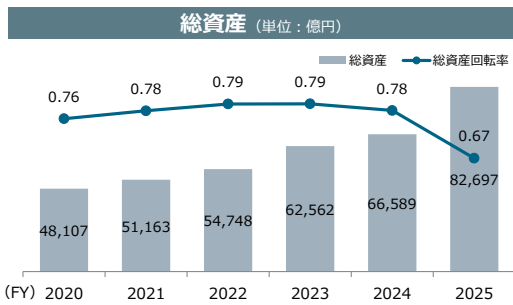
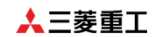
2026年度見通しのポイント

- 防衛・宇宙の受注は前年度対比で減少するも、高水準を維持。売上は防衛航空機・飛昇体を中心に増加

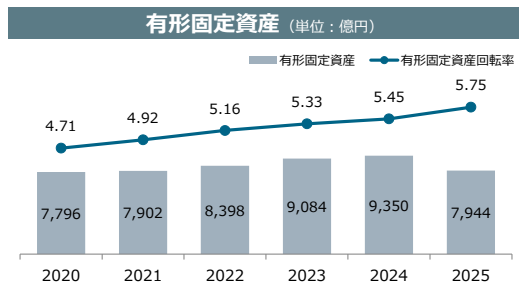
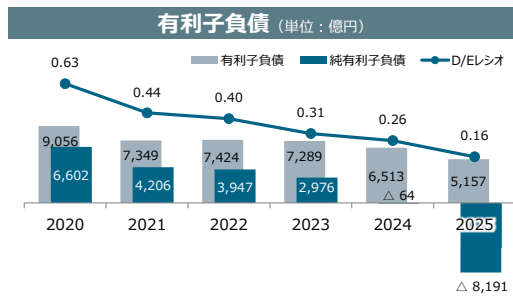
	受注高		売上高	
	FY25	FY26見通し	FY25	FY26見通し
防衛・宇宙	16,826	14,000	11,445	12,500
民間機	2,468	2,500	2,492	2,500

4. 補足資料

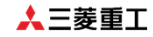
補足資料 財政状態 (2024年度以前は、ML分を含む数値)



総資産回転率 = 売上収益 ÷ 総資産 (期首・期末平均)



補足資料 参考データ



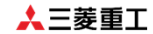
受注残高 (単位：億円)	2024年度	2025年度
エナジー	49,184	69,832
プラント・インフラ	17,053	21,028
物流・冷熱・ドライブシステム	793	685
航空・防衛・宇宙	35,145	40,632
その他及び全社又は消去	185	198
合計	102,362	132,376

エナジーセグメント 売上AS比率 (累計)	2024年度	2025年度
GTCC	51%	49%
スチームパワー	65%	76%
原子力	77%	71%
エナジー計	62%	63%

大型ガスタービン 受注台数・契約残台数	2024年度	2025年度
米州	11	19
アジア	5	12
EMEA	9	4
その他	-	-
受注台数 合計	25 (11GW)	35 (16GW)
契約残台数	48 (21GW)	74 (33GW)
中国の協業先企業 受注台数	7	13

民間航空機 出荷機数					
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
777					
FY24	6	6	2	5	19
FY25	6	8	4	5	23
777X					
FY24	3	3	1	0	7
FY25	0	3	5	1	9
787					
FY24	9	12	12	12	45
FY25	18	17	16	22	73

補足資料 参考データ



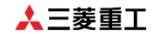
その他の実績、見通し ^{(*)1} (単位：億円)	2024年度	2025年度	2026年度 見通し
営業キャッシュ・フロー	5,304	9,426	5,000
投資キャッシュ・フロー	△1,877	△491	△2,000
フリー・キャッシュ・フロー	3,427	8,934	3,000
財務キャッシュ・フロー	△1,141	△2,745	-
有利子負債残高	6,513	5,157	-
D/Eレシオ	0.26	0.16	-
研究開発費（広義） ^{(*)2}	2,109	2,890	3,500
減価償却費	1,149	1,214	1,200
設備投資（広義） ^{(*)3}	1,528	1,839	2,100
販管費	5,840	6,328	-

(*)1 研究開発費、減価償却費、設備投資、販管費はML分を含まず
 (*)2 研究開発費には、受託研究等の費用を含む
 (*)3 設備投資には、対価を得て行う生産準備役務等のために取得した固定資産に対する支出を含む

売上計上平均レート	2024年度	2025年度
USドル（円/USドル）	152.2	150.4
ユーロ（円/ユーロ）	162.6	173.1

未確定外貨（2026年度） (億通貨単位)	USD	EUR
未確定外貨（事業利益）	40	8
未確定外貨（金融収益費用）	19	0
前提為替レート	150.0	180.0

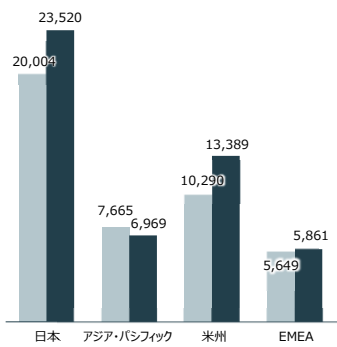
補足資料 地域別売上高



全社

(単位：億円)

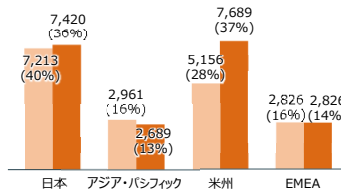
	2024年度		2025年度	
日本	20,004	(45%)	23,520	(47%)
アジア・パシフィック	7,665	(18%)	6,969	(14%)
米州	10,290	(24%)	13,389	(27%)
EMEA	5,649	(13%)	5,861	(12%)
合計	43,611		49,741	



エナジー

(単位：億円)

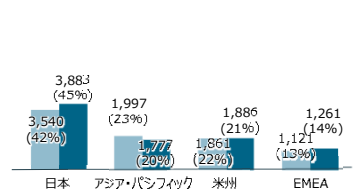
FY24 (合計：18,157)
FY25 (合計：20,626)



プラント・インフラ

(単位：億円)

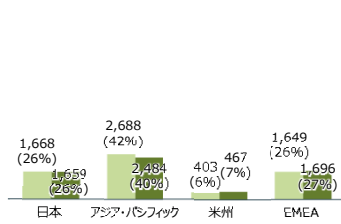
FY24 (合計：8,521)
FY25 (合計：8,808)



物流・冷熱・ドライブシステム

(単位：億円)

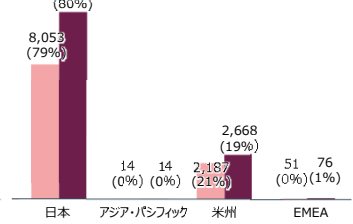
FY24 (合計：6,410)
FY25 (合計：6,308)

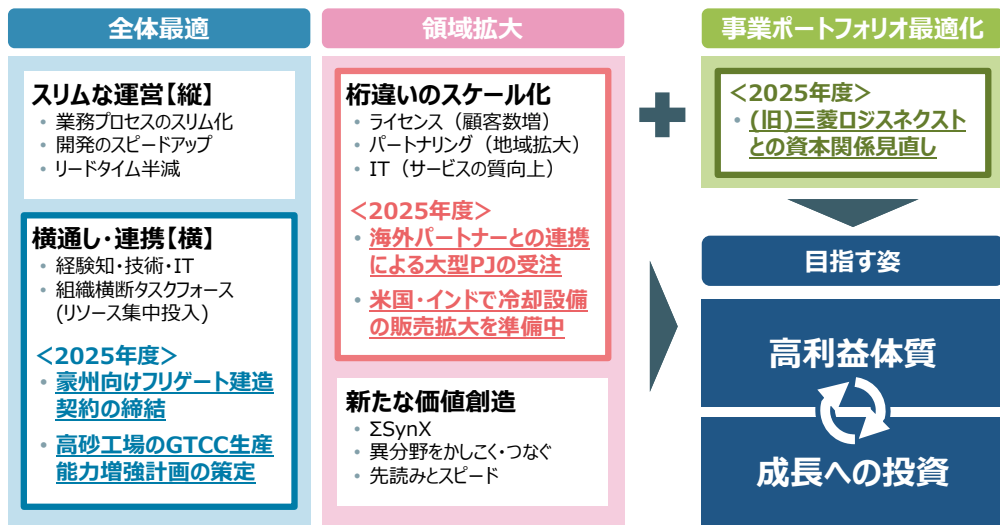


航空・防衛・宇宙

(単位：億円)

FY24 (合計：10,306)
FY25 (合計：13,938)

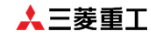




Innovative
Total
Optimization 

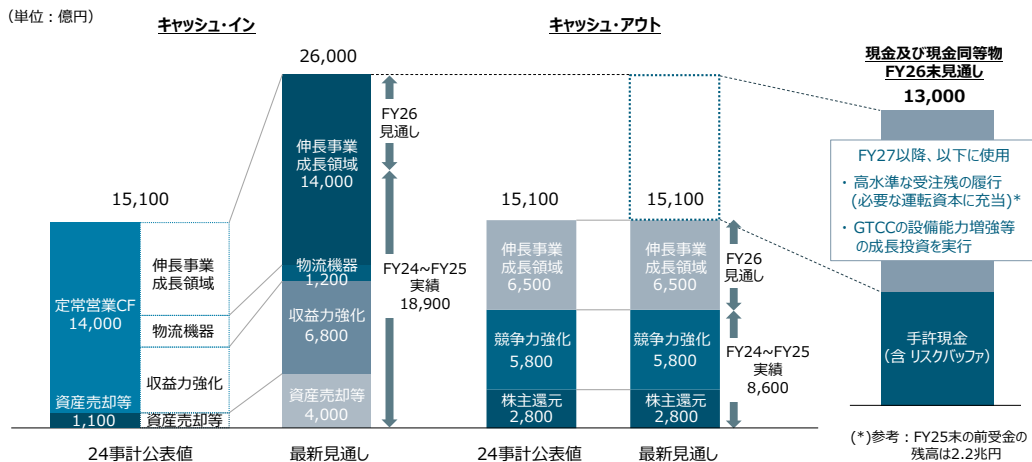
2026年度事業利益公表値 5,400億円
(24事計公表値 4,500億円)

補足資料 キャッシュアロケーション



- 24事計公表時より、伸長事業を中心に入金が先行し、キャッシュ・インは計画を大きく上回る見通し
- キャッシュ・アウトは概ね当初計画通りの見込み。超過キャッシュ・イン分は、FY27以降の運転資本、GTCCの設備能力増強などに充てる

キャッシュ・アロケーション見通し（24事計期間：FY24～FY26）



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

35

CFOの西尾です。

24事計で掲げたキャッシュアロケーションの進捗状況について補足します。35ページをご覧ください。

まず、左側のキャッシュ・インの状況ですが、事計公表時に1兆5,100億円を計画していたところ、24年度、25年度の2年間で1兆8,900億円の入金があり、26年度までの3年間の見通しは2兆6,000億円となっています。これは、伸長事業を中心とした前受金等が大きな要因です。

一方、右側のキャッシュ・アウトは概ね当初計画通りの見込みです。

結果として、キャッシュ・インが大幅に先行しているため、一時的に多額のキャッシュを抱えていますが、これは、27年度以降のバックログ遂行のための運転資本に加え、GTCCなどの増産対応に向けた設備投資や成長投資に充てる予定です。

私からの説明は以上です。

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

